

阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会
2010年度 第6回(通算230回)幹事校会記録

日時 2011年4月13日(水) 14:00~17:32

場所 学校法人常翔学園 大阪センター 304教室

出席 12大学(19名)

追手門学院大学: 井ノ口淳三

大阪音楽大学: 大前哲彦

大阪産業大学: 谷田信一、山田全紀、瀬島順一郎

大阪電気通信大学: 川地亜弥子

関西大学: 原 徹

関西学院大学: 南本長穂、富江英俊

神戸女子短期大学: 山下功晃

四天王寺大学: 八木成和

姫路獨協大学: 中嶋佐恵子

桃山学院大学: 野尻 亘

大阪工業大学: 野村良紀、酒井恵子、疋田祥人、山口洋之、西川泰行、半田 孝

司会 半田 孝

記録 原 徹

議事

新年度最初の幹事校会開会に先立ち、大阪工業大学の野村良紀氏(会長代行)から挨拶があった。

1. 第5回幹事校会記録の確認について

資料に基づき記録案の確認が行われ、これを了承した。

2. 全私教協理事会報告について

疋田祥人事務局次長から、第6回理事会(2011年3月19日開催)事項として資料に基づき下記の報告等があった。

(1)2011年度定期総会・第31回研究大会について

- ・全体テーマが「私立大学における教員養成の存在意義を考える」に決定した。
- ・基調講演者は、阪神教協から推薦した碓井岑夫氏(四天王寺大学学長)に決定した。
- ・シンポジウムのテーマ、シンポジスト、司会者(阪神地区選出者を除く)が決定した。
- ・阪神教協の分科会が5月22日(日)第7分科会(13:30~16:30)に決定した。

・総会出席および大会参加の事前申込が、資料では「Web入力（またはFAX）」と記載されているが「Web入力」による申込に一本化された。また、全私教協のホームページが開設された旨説明があり、同ホームページから「Web入力」が可能になる予定である。

- ・会計監査は、会場校が所属する阪神教協が行う。
- ・阪神教協の活動報告および分科会要旨の提出（締切：4月16日）等について依頼があった。
- ・プログラムが昨日（4月12日）発送され、近日中に各加盟大学に届く予定である。

(2)2011年度「教職課程運営に関する研究交流集会」開催地区・会場校について

・以下の日程で検討されている。

日 程：11月20日（日）

会場校：龍谷大学深草学舎（京都地区協議会）

(3)2012年度定期総会・第32回研究大会会場校について

・以下の日程で検討されている。

日 程：5月19日（土）・20日（日）

会場校：九州産業大学（九州地区協議会）

(4)東北関東大震災に対する全私教協としての支援について

- ・全私教協事務局としては、当面以下の対応をすることになった。
 - ①全私教協事務局で東北地区協議会の会員校の状況を把握する。
 - ②日本赤十字社を通じて義援金30万円を送付した。
 - ③必要に応じて、教育実習の受け皿などの支援を検討する。

引き続き、酒井恵子事務局長から、本理事会報告に関連して以下の補足等があった。

(1)2011年度定期総会・第31回研究大会のシンポジストについて

前幹事校会での議を踏まえ全私教協事務局に確認をしたところ、阪神教協からの推薦候補者には依頼する可能性がないことが判明し、すでに内諾を得ていた上田孝俊氏（武庫川女子大学）には、仲介いただいた前原健三氏（武庫川女子大学）を通じ阪神教協事務局としてお断りの連絡とお詫びをした旨の報告があった。

(2)東北関東大震災に対する阪神教協としての支援について

阪神教協として対応できる支援内容について問題提起があったが、全私教協事務局も東北地区協との連絡を見合わせ、各大学の状況が掴めないなかで義援金以外の具体的な支援ができない状況であることを踏まえ、被災地で何が必要とされ、阪神教協として何ができるのか等についてさらに情報を収集し、引き続き幹事校会として検討していく扱いとした。

<意見等>

- ①阪神地区に避難している被災者等で教育実習を希望している学生への支援として、教育

実習の受け皿（実習校）の確保等、できる限りの支援をする旨の意思表示をホームページ上で表明してはどうか。

②上記学生に対する対応について教育委員会に申し入れ等を行ってはどうか。

③教育実習の受け皿（実習校）の開拓については確約できることではないのでホームページへの掲載にあたっては、確実に対応の目途がたったことのみを記載するなど、慎重に扱う必要がある。

③阪神・淡路大震災時に対応した事例があるのであればその先例に倣ってはどうか。

④全私教協としての支援策として、教職志望で就職先未定の卒業生に東北各県教委へ講師登録を呼びかけてはどうか。被災地で教職に就くことにより、災害ボランティアや復興支援に携わる機会も持てる。また、金銭的な支援を義援金という形ではなく、被災地で講師登録ができた場合の住宅費や交通費等の生活支援に充ててはどうか。

⑤私たちがよかれと思うことも被災地の教育委員会で受入れてもらえるかどうかは疑問である。

3. 全私教協研究大会および阪神地区分科会の運営について

(1) 全私教協研究大会の運営について

・会場校の富江英俊氏および南本長穂氏（関西学院大学）から、下記の報告等があった。

①近日中に全私教協ホームページから Web 上で参加の事前申込みが可能になる。

②両日とも、関西学院大学学長、副学長、教務部長、各学部長、学院長等の役職者が公務出張で不在のため、定期総会では善明宣夫氏（教職教育研究センター長）が会場校代表挨拶をする予定。なお、情報交換会での代表挨拶者は現時点では未定。

③両日とも学生アルバイトを 20 名手配している。

④両日の受付補助および情報交換会の司会者を阪神教協から選出願いたい旨の依頼があり、下記のとおり決定した。

[受付補助]

5月21日（土）9：30～10：30

酒井恵子氏・疋田祥人氏（大阪工業大学）、樋口太郎氏（大阪経済大学）

5月22日（日）9：00～9：30

酒井恵子氏・疋田祥人氏（大阪工業大学）、野尻 亘氏（桃山学院大学）

[情報交換会司会] 大前哲彦氏（大阪音楽大学）

・上記以外の阪神教協の役割分担として下記のとおり決定した。

①シンポジウムの司会（5月21日）：杉浦 健氏（近畿大学）

②会計監査：八木成和氏（四天王寺大学）

なお、会計監査業務に係る交通費の扱いについては、前年度にならって対応することとした。

・運営に関して下記の要望等があった。

- ①5月22日(日)の各分科会会場において、質疑応答時のマイク持ち、機器操作の補助および発表資料の配布補助等、必要に応じてアルバイト学生等を配慮願いたい。
- ②会場校へのアクセス情報をWeb上で掲載願いたい。
- ③甲東園からのバスの臨時便について手配願いたい。

(2)阪神地区分科会の運営について

・酒井恵子事務局長から、下記のとおり説明があった。

- ①大阪府社会福祉協議会から野田彰子氏の出席について内諾を得られた。なお、ご本人の要望により、コメンテーターとしてではなく、一参加者としてフロア側で適宜感想等を述べていただきながら進行する予定。
- ②ただし、事務処理上はコメンテーターとして、昼食をとりながらの打合せにも参加いただき、謝礼・交通費は支払う扱いとする。

4. 2011年度阪神教協定期総会および第1回課題研究会の運営について

(1)定期総会の運営について

・定期総会資料「2010年度における活動の概要」に掲載する活動実績として、下記の項目を追記することとした。

- ①阪神教協ホームページ充実の一環で幹事校会の記録をアップしたこと。
- ②全私教協との連携に関することとして、2011年度全私教協定期総会・第31回研究大会を阪神地区(会場校:関西学院大学)で引き受け、会場校を中心にその準備を進めたこと。

・定期総会資料「2010年度における活動の概要」について、以下の修正点を確認した。

①「2.幹事校会の開催」欄の修正点

<1行目>

(誤) 2010年度第6回(通算224回)

(正) 2009年度第6回(通算224回)

<15行目>

2010年度第1回(通算225回)

(誤) 場所:大阪電気通信大学寝屋川キャンパスR号館J301室

(正) 場所:大阪電気通信大学寝屋川キャンパスJ号館301室

②「3.課題研究会の開催」欄の修正点

<3行目>

第1回課題研究会

(誤) 場所:大阪電気通信大学寝屋川キャンパスエデュケーションセンター(J号館)312室

(正) 場所：大阪電気通信大学寝屋川キャンパスJ号館 312 室

<5 行目>

第 1 部 教職課程認定大学実地視察校報告者として (摂南大学 深川八郎氏) を追記

<9 行目>

第 2 回課題研究会

(誤) 日時：2010 年 10 月 20 日

(正) 日時：2010 年 10 月 20 日 (水) <時間を追記>

③「4. 全私教協及び他地区との連携」欄の修正点

<4 行目>

(誤)・・・川地亜弥子 (大阪電気通信大学)・・・

(正)・・・川地亜弥子氏 (大阪電気通信大学)・・・

・定期総会資料「2011 年度新役員・委員候補者一覧」の会計監査委員について、前回の幹事校会において前原健三氏 (武庫川女子大学) を候補者とすることを確認していたが、ご本人から断りの連絡があった旨の報告があり、人選は事務局に一任することとした。

・定期総会資料「2011 年度活動方針および事業計画 (案)」について、特に昨年との変更点はないが、下記の文言は現状に合わないため削除することとした。

<19 行目>

※課題の継続性を考え、また幹事校以外の会員の参加をはかるため、引きつづき部会体制をとって課題研究会をすすめる。

・定期総会資料「2011 年度会員校一覧」について、下記の新規会員校を確認した。

新規会員校 (2010 年度中に加盟した大学)：神戸常盤大学、頌栄短期大学

・定期総会資料「2010 年度阪神教協収支決算書 (案)」について

疋田祥人事務局次長から、資料に基づき、下記のとおり説明があった。

①事務局費一人件費の「事務局員通信費」について

2010 年度予算では「事務局員通信費」を上限 50,000 円としていたが、現事務局校では学生アルバイトの手配が難しいこともあって、教職員 8 名の事務局員で運営をしており、合計 84,000 円の決算となったが、人件費総額としては予算内の執行額である。

②事務局費一会議費について

14,400 円の予算超過となったが、これは事務局引継ぎ等の関係で、前事務局校の大阪電気通信大学へ出向いて会議を開催する必要が数度あったことによるものである。

③印刷関係費ーリポート印刷費について

93,420 円の予算超過となったが、これはリポート第 33 号のページ数が想定していたペ

ージ数の倍近くになったことによるものである。

④印刷関係費—レポート編集費について

13,409 円の予算超過となったが、これは前年度のレポート第 32 号に関する未払いの執筆謝礼を 2010 年度に支払ったことによるものである。

⑤研究協議会費—全体会合費について

182,295 円の予算超過となったが、これは 40 名規模で予算計画を立てていた情報交換会参加補助費が、2010 年度の各情報交換会では 50 名規模の参加者となったことによるものである。

⑤全国協議会費—会費について

70,420 円の予算超過となったが、これは会員大学が 2 大学増えたことによるものである。

以上の説明の後、①事務局費—一人件費の「事務局員通信費」一人あたりの単価 1,000 円／1 ヶ月について、レポート編集費 30,000 円とのバランス等も含め、見直してはどうかとの意見があり、審議の結果、2010 年度予算では前事務局の実績（アルバイトを活用して業務を遂行）にあわせて単価 1,000 円／1 ヶ月としていたが、アルバイトを活用せず 8 名の専任の事務局員で業務を運営している現事務局の実態とレポート編集費 30,000 円とのバランスを鑑み、3,000 円／1 ヶ月（×12 ヶ月＝36,000 円）に改め、2011 年度予算から適用するとともに、2010 年度から同額で執行することとした。また、これに伴い 2011 年度予算から、「事務局員通信費」を「事務局員活動費」に費目名称を改正することとした。

・定期総会資料「2010 年度阪神教協特別会計収支決算書（案）」について

疋田祥人事務局次長から、資料に基づき、支出 1,935,467 円（『教師を育てる』印刷・出版費）、収入 239,920 円（『教師を育てる』売上金 253 冊分）、差し引き 1,263,023 円が次年度繰越金となる旨説明があった。

・定期総会資料「2011 年度阪神教協予算案」について

疋田祥人事務局次長から、資料に基づき、2010 年度予算ならびに 2010 年度の実績に基づき予算計画をたてた旨報告があり、下記のとおり補足説明があった。

①事務局費—一人件費の「事務局員通信費」について

費目名を「事務局員活動費」に改め、一人あたりの単価を 3,000 円／1 ヶ月に修正する。

②研究協議会費—会合費について

従来、全体会合費と研究会合費を分けて予算計画を立てていたが、これらの違いが曖昧なため会合費として一本化し執行することとした。

以上の説明の後、毎年度の繰越金の状況に鑑み、会費の値下げに係る見直しについて問題提起があり、審議の結果、会費の「値下げ」ではなく、情報収集、大学の壁を超えた学生の

勉強会、学生と教育現場との交流会等、大学や学生に還元できる事業を実施するなど、会費の有効的な使途を幹事校会として検討していくこととした。

・定期総会資料「2011年度阪神教協特別会計予算案」について

疋田祥人事務局次長から、資料に基づき、予算としては前年度の繰越金 1,263,023 円を収入とし、支出は 200,000 円の海外渡航助成・補助金のみを予定としている旨説明があった。

以上の説明の後、海外渡航助成・補助金制度の活用実績がないことについて指摘があり、名誉教授および非常勤講師も含め、会員校に勤務する（ゆかりのある）者で候補者があれば幹事校会に提案いただきたい旨、周知があった。

・阪神教協会費の納入方法について

疋田祥人事務局次長から、会費の納入方法について、資料に基づき現状の問題および改善策について説明があり、「改善策 イ）ゆうちょ銀行に当座預金を開設し、「払込取扱票」により納入していただく。」を前提に下記の対応をすることとした。

①ゆうちょ銀行口座開設に必要なことのみを規定する会計内規を制定し、同内規については幹事校会での承認をもって改正できる扱いとする。

②上記①の対応が可能になるよう、会則第 9 条（事務局および事務局長）第 2 項として「事務局および事務局長は会計に必要な細則や内規を定めることができる。」といった趣旨の規定をする。

③上記②の会則改正原案を事務局で作成し、定例総会までに幹事校会メーリングリストで事前協議を終えておく。

(2)第 1 回課題研究会の運営について、下記のとおり確認した。

・課題研究会の内容に鑑み、下記の時間配分で運営することとした。

定期総会 13 時 30 分～14 時 30 分

課題研究会

第 1 部 教職課程認定大学実地視察校報告 14 時 45 分～15 時 10 分

第 2 部 教職課程における発達障害学生の指導 15 時 15 分～17 時 30 分

プール学院大学 中村 健氏

発表 15 時 15 分～16 時 30 分

質疑応答 16 時 30 分～16 時 35 分

休憩 16 時 35 分～16 時 45 分

大阪産業大学 瀬島順一郎氏

発表 16 時 45 分～17 時 15 分

質疑応答 17 時 15 分～17 時 20 分

全体討論 17時20分～17時30分
情報交換会 18時00分～20時00分

- ・課題研究会の役割分担を下記のとおり決定した。

記録：杉浦 健氏（近畿大学）

司会：第1部 原 徹氏（関西大学）

第2部 酒井恵子事務局長

5. 阪神教協リポート編集について

山田全紀氏（大阪産業大学）から、資料に基づき編集作業の状況等について報告があり、編集内容について下記のとおり確認した。

- ・「会員大学自己紹介」および「寄稿論文」の項目を新たに設けた。
- ・目次欄について、以下の修正を行う。

<24行目および27行目>

第三回課題研究会

第一部／第二部

質疑応答の記録（関西大学 原 徹） → （大阪音楽大学 大前哲彦）

6. 「阪神教協教職課程データベース（平成22年度版）」の作成について

酒井恵子事務局長から、資料に基づきアンケートの回答状況等について報告があり、今後の対応等について下記のとおり確認した。

- ・印刷物は回答のあった大学のみ配布する。（すでに幹事校会で確認済）
- ・管理上、印刷物は1大学1部の配布とする。
- ・できるだけ回答のない大学に協力を求め、完成次第会員校へは郵送する。
- ・生データの提供に関しては、分科会および課題研究会等の発表を前提とする研究目的の場合は提供可とし、それ以外の目的で求められた場合は、幹事校会（メーリングリストによる承認も可）での承認を得た上で提供することができる扱いとする。

7. 幹事校会名簿およびメーリングリストの確認について

疋田祥人事務局次長から、2011年度幹事校会担当者について、すでに事務局に変更の連絡をいただいた大学もあるが、近日中に新年度の担当者に関して各幹事校に照会をさせていただく旨、周知があった。

また、本日より出席いただいている新担当者の野尻 亘氏（桃山学院大学）、山下功晃氏（神戸女子短期大学）の両名より自己紹介があった。

8. 今後の記録担当について

今後の記録担当者について下記のとおり確認した。

- ・ 5月11日の記録担当者について下記のとおり決定した。

幹事校会の記録 : 未定

定期総会の記録 : 井ノ口淳三氏 (追手門学院大学)

課題研究会の記録 : 杉浦 健氏 (近畿大学)

- ・ 関西学院大学は本年度の全私教協研究大会会場校のため、1周目のローテーションからは免除する扱いとする。

9. その他

次回幹事校会の日程を下記のとおり確認した。

日程 : 5月11日 10時45分～

場所 : 大阪工業大学 大宮キャンパス

以上